

た。さらに、すでに文化財写真課程を受講した方々から、基礎編だけではなく応用編の機会も欲しい、という意見があり、これに対処することもひとつの目的でした。

この課程は初めて実施するというのもあって、応募者の写真技術はどの程度なのか、また考え方や意識はどうなのか、といろいろと不安でした。心配はほぼ適中し、文化財写真課程と同様に基礎編から始めなくては何も通じないのです。しかも文化財写真精神論からでなくては。また、写真記録法に関しても問題点が多々ありました。特に、写真の評価をしようとしなから良否の判定ができないのです。急遽2日目から応用組(3名)と基礎組(17名)とに分けて研修を実施することにしました。

結果として、我々の感想は「期間が足らん」であり、研修生は「短い」でありました。しかしたとえ短い期間であっても実施してかなりの手応えがありました。きっと研修生も「よかった」と感じてくださったことでしょう。(埋蔵文化財センター)

発掘技術者専門研修「遺物撮影課程」

今年度は「遺物撮影課程」を、4月17日から24日までの短期で実施しました。応募は思いのほか多く、募集定員を遥かに超える盛況ぶりで、最終的には20名を対象としました。

この研修は、8月から9月に実施する「文化財写真課程」の期間が長過ぎて、参加したくても難しいという自治体や機関の意見に答えようというのが第一の目的でした。また昨今の発掘調査における記録の方法や報告書編集の意識を見ていると決して最良とは言いがたく、写真を通して「文化財における記録とは」ということをもう一度見つめ直す必要があり、そのためにもより多くの調査員や学芸員の方々との意見交換の機会が欲しいという思いもありまし